

(様式1)

令和3年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、明朗かつ協調性豊かで、心身ともに健康な児童生徒を育成する。

2 学校の特徴

- ・ 本校は県中央部に位置し、知的障害を主障害とする児童生徒を対象とする特別支援学校である。小学部から高等部まで253名の児童生徒が学んでおり、県内では最も規模が大きい。
- ・ 児童生徒一人一人の興味・関心、意欲を大切にしながら、実態に応じた個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、保護者や関係機関と連携して系統立てた指導を行い、児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことを目指している。
- ・ 健康な体と体力つくりのために積極的に運動を取り入れている。
- ・ 将来、地域社会における生活基盤を確立するため、行事を通して社会的な体験を広めるとともに近隣の学校や地域の老人クラブ等との交流及び共同学習に力を注いでいる。

3 学校の現状と課題

- ・ 自閉症（傾向を含む）の児童生徒が半数を超え、さらに、知的障害と他の障害を併せ有する児童生徒も多い。そこで、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、個別の指導計画に基づいて個に応じた学習活動を展開するとともに、障害の状況に応じて学習形態や学習環境を工夫している。今後は、主体的・対話的で深い学びに結び付く授業改善を進め、「観点別学習状況の評価」の観点を踏まえた個別の指導計画の目標設定や学習評価を行っていく必要がある。
- ・ 児童生徒の実態の多様化や障害福祉制度の変化に伴い、進路選択の手続きが複雑になってきている。昨年度は、児童生徒や保護者、教職員が卒業後の生活や障害福祉サービス事業所での活動などの具体的なイメージをもち、児童生徒が主体的に進路選択できることを目指して、障害福祉サービス事業所ガイドブック（冊子版・タブレット端末版）の作成等に取り組んだ。今年度は、障害福祉サービス事業所ガイドブックの内容の充実を図り、授業や進路指導等で一人一人に応じた効果的な活用について検討するとともに、児童生徒、保護者が主体的に進路選択できるよう進路支援の一層の充実を図る必要がある。
- ・ 日常生活における挨拶は、人と関わる上で基本的な力であり、自立と社会参加を目指す上で重要と考える。本校の児童生徒の挨拶の状況は、登下校時などに自分から挨拶する児童生徒から、教師に促されて挨拶する児童生徒など様々である。そこで、地域生活や卒業後の生活において人とより良く関わる力の育成を目指し、個々の実態に応じて、言葉や身振り等で進んで挨拶できるような指導場面の設定や支援の工夫を検討していく必要がある。
- ・ 令和2年度よりICT教育推進事業実施校となり、ICT活用環境の整備を進めてきている。昨年度は、教職員対象のICT研修会の実施やアプリ等の紹介を行うことで、教職員がアプリの利用を含めたICT活用に興味をもち、具体的な使用方法を理解することができた。また、タブレット端末を活用する学習指導において、多くの児童生徒が実際にタブレット端末を利用することができた。今年度は、児童生徒に一人に1台導入されるタブレット端末の授業での活用促進やWi-Fi環境を生かしICT機器を活用した教員の更なる指導力向上を図る必要がある。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	・新学習指導要領に示された目標や内容が、育成すべき資質・能力の三つの柱(知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)で再整理されたことを踏まえ、三つの観点がバランスよく網羅された児童生徒の目標設定、学習評価を行い、個別の指導計画に基づいた指導の充実を図ることができるようにする。
		計画 教務	・育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた各教科・各学年等の評価の観点及びその趣旨についての資料を配布し、共通理解を図る。 ・新学習指導要領の育成する資質、能力を踏まえて、年間指導計画の各単元・題材における指導内容について検討する。
		目標	・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習活動や支援方法を工夫、検討しながら授業改善を行うことで、児童生徒の資質・能力を育成できるようにする。
		計画 研修	・児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿について検討する。 ・資質・能力の三つの柱を育成するための多様な学習活動について検討する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行う。
2	学校生活	目標	・児童生徒の安全安心な登下校支援体制(コロナ対応を含む)の確立を図る。
		計画 生指	・「マナーアップデー」や乗車指導を行い、通学バス内や公共交通機関等で、具体的な指導を行う。 ・取組を学校便りやホームページ等に載せ、保護者の理解と協力を得る。 ・保護者、担任、生徒指導部等が連携し、児童生徒の通学バスやデイサービスへの確実な引き継ぎ手続きを再構築するとともに、具体的事例を通したミニ研修会を行う。
		目標	・児童生徒の防災に対する実践力を高めるとともに、教職員の防災意識を一層高め、学校防災体制を強固なものにする。
		計画 生指	・避難訓練、防災教室等の機会を通して、児童生徒に繰り返し防災の大切さ及び具体的な行動を指導する。 ・地震、火災(洪水、土砂災害)など様々な災害の状況を想定し、速やかに対応できるよう学校防災マニュアルの充実を図る。
		目標	・学校内外で安全・安心に活動できるようにするための対応の周知を継続して行う。
		計画 生指	・学校内外における不審者対応について、教職員で共通理解を図って訓練を行い、防犯体制を強化する。 ・共通理解が必要な内容については、随時グループウェアやホームページ等で知らせ、全教職員及び保護者に周知する。
		目標	・児童生徒が健康に関心を持ち、心身の健康状態を伝えることができるようにする。
		計画 保健	・児童生徒が心身の状態について、身体各部位の名前や症状を絵・文字カードを活用したり言葉で伝えたりすることができるようにする。 ・自他の健康状態に興味・関心をもつことができるよう支援する。 ・個に応じた支援方法や教材に関する情報を教職員間で情報共有する環境を整える。
		目標	・食物アレルギーに関する理解の促進を図る。
計画 給食	・食物アレルギーを有する児童生徒への対応やエピペン®の使い方の学習会等を行う。 ・ヒヤリハット情報を全教職員に周知し共有することで、再発や未然の事故を防ぐ。		

3	進路支援 重点1	目標	・児童生徒が主体的に進路選択できるようにするための進路支援の充実を図る。
		計画 進路	・本校の卒業生が利用している障害福祉サービス事業所の様子を動画で閲覧できる「障害福祉サービス事業所ガイドブックタブレット端末版」の掲載事業所数を増やし、より多くのニーズに合わせた情報提供ができるようにする。 ・生活単元学習、総合的な探究の時間、職業などの学習や進路相談会の中で障害福祉サービス事業所ガイドブックの冊子版・タブレット端末版を活用できるように周知する。
4	特別活動 重点2	目標	・主体的に挨拶できる児童生徒の育成を図る。
		計画 特活	・挨拶の指導に関する教材を作成して、タブレット端末等で見るようにし、各学級における指導で活用する。 ・児童会や生徒会執行部を中心に「挨拶の花を咲かせよう」のスローガンで全校児童生徒に呼び掛け、挨拶に関するエピソード等を募集して花形の色紙に記入して掲示したり、挨拶運動や挨拶タイムを実施したりする。
		目標	・体を動かす楽しさを体験し、余暇活動の充実を図る。
		計画 学部 特活	・ダンス・エアロビクス等の専門家を招聘してワークショップを行う。 ・ワークショップでの活動を授業や家庭で継続的に取り組めるようにする。
5	その他 重点3	目標	・PTAの事業内容の充実と合理的な運営を図る。
		計画 総務	・PTA役員と担当教員とで話し合い、保護者や児童生徒が関心をもって参加できるような活動内容を工夫する。 ・話し合いや準備に要する時間が双方の負担にならないように、担当者間で事前の打ち合わせをし計画的に進めるようにする。
		目標	・児童生徒の読書環境を整えるとともに読書活動の推進を図る。
		計画 情図	・児童生徒が利用しやすい図書室となるよう、書架や書籍の配置等の環境を整える。 ・読書推進活動について、現在の活動を見直したり、新たな活動を考えたりし図書委員会と連携して取り組む。
		目標	・児童生徒のICT機器活用の推進を図る。 ・教員のICT活用能力の向上を図る。
		計画 情図	・各学部の取組をまとめた「ICT活用事例集」の紹介や新しく導入したアプリ等の情報交換会を実施し、児童生徒のICT活用を進める。 ・外部講師による研修会、活用事例やアプリを紹介する研修会を実施する。
		目標	・寄宿舎の規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣や社会性を身に付けるよう具体的な支援の充実を図る。
		計画 舎	・一人一人に応じた生活目標を設定し、実態やニーズについて指導員間で共通理解を行い、支援内容や方法について検討し実践する。 ・学部、担任、家庭と連携を図り、効果的な生活指導になるように努める。
		目標	・知的障害のある幼児児童生徒の適切な学びの場の選択につながるよう、就学・進学に関わる行事や相談等の充実を図る。
計画 教相	・本校教育活動への理解を深めたり、就学・進学についての適切な情報提供を行ったりできるように、行事や相談の進め方を工夫していく。 ・相談担当者のスキルを高めるための学習会等を行い、相談者のニーズに応じた適切な情報提供ができるよう努める。		

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和3年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	児童生徒が主体的に選択できる進路支援の充実	
現 状	<p>昨年度は、児童生徒や保護者、教職員が卒業後の生活や障害福祉サービス事業所での活動などの具体的なイメージをもち、児童生徒が主体的に進路選択できることを目指して、障害福祉サービス事業所ガイドブック（冊子版・タブレット端末版）の作成、事例に基づいた教員向けの学習会、障害福祉サービス事業所合同説明会に取り組んだ。これらの取組では教員向けの学習会に参加した教員の満足度96%、合同説明会の参加事業所及び保護者の満足度95%であり、一定の成果が得られた。</p> <p>ガイドブック冊子版は76事業所の情報を掲載し、保護者、教職員、協力事業所に配付した。タブレット端末版は11事業所の情報を掲載しており、一部の学級で活用したところ、動画で紹介されているため、事業所の雰囲気や様子が分かりやすいとの感想があった。</p> <p>そこで、今年度は児童生徒や保護者がより主体的に進路選択ができるように必要な情報をさらに収集して、タブレット端末版の内容の充実を図るとともに、授業や進路指導等で一人一人の実態やニーズに応じて効果的に活用していきたい。</p> <p>これらの取組を通して、児童生徒、保護者が主体的に進路選択できるよう進路支援の一層の充実を図りたい。</p>	
達成目標	障害福祉サービス事業所ガイドブック タブレット端末版の充実	障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版・タブレット 端末版を活用した進路支援の推進
	・7事業所の情報の追加	・授業等で障害福祉サービス事業所ガイドブックを使用した学級の割合 小学部（5・6年）60% 中学部70% 高等部80%
方 策	・本校の卒業生が利用している障害福祉サービス事業所の詳細をまとめた「障害福祉サービス事業所ガイドブックタブレット端末版」の掲載事業所数を増やし、より多くの生徒のニーズに合わせた情報提供ができるようにする。 ・生活単元学習、総合的な探究の時間、職業などの学習や進路相談会の中で障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版・タブレット端末版を活用する。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

重点項目	挨拶の習慣化	
重点課題	主体的に挨拶できる児童生徒の育成	
現 状	<p>本校の児童生徒の挨拶における実態は「おはよう（ございます）」や「さようなら」が習慣化している児童生徒、教師に促されてできる児童生徒、身近な相手であれば自分からできる児童生徒など様々である。また、日中に廊下などで教員や来校者に対して「こんにちは」と言葉を掛けることについては、朝や帰りの挨拶ほど定着はしていない。そこで今年度は、登下校時の挨拶「おはよう（ございます）」「さようなら」に加え、日中の「こんにちは」、更に、感謝の気持ちを伝える「ありがとう」を含めて挨拶に取り組み、挨拶の意識付けや習慣化を図りたいと考える。生徒会執行部の中には、挨拶の音が聞かれる明るい学校にしたいという思いをもつ生徒もおり、生徒会を主体として、挨拶運動や挨拶タイム、校内放送などで挨拶する意識を高めていきたい。</p>	
達成目標	各学級で挨拶に関する指導の実施	挨拶に関する個人目標の達成率
	1回	80%
方 策	<p>○挨拶に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶の指導に関する教材を作成してタブレット端末等で見るようにし、各学級における指導で活用する。 <p>○目標設定と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 4種類の挨拶について、個に応じて達成可能な目標を設定する。（6月） 挨拶に関する指導や挨拶運動を通して、目標が達成できたか評価する。 <p>○「挨拶の花を咲かせよう」運動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会や生徒会執行部を中心に「挨拶の花を咲かせよう」のローガンで呼び掛け、児童生徒各自の挨拶に関するエピソード等を募集して花形の色紙に記入し、掲示板の花壇の絵に貼る。 執行部生徒を主体とした挨拶運動と挨拶タイムの実施やポスターの制作及び掲示を行う。（年間3回、各1週間程度） 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

重点項目	その他（情報活用）	
重点課題	教員のICT活用能力の向上3	
現 状	<p>本校は、令和2年度よりICT教育推進事業実施校となり、現在、児童生徒全員がICT機器の活用ができるように環境整備を進めている。</p> <p>昨年度は、新しく導入された機器や環境を生かしたICT機器の活用ができるように、児童生徒の利用の促進や教員の指導力の向上を図り、タブレット端末に親しむ児童生徒やICT機器を活用し指導力が向上した教員の数を増やすことができた。</p> <p>そこで、今年度は児童生徒一人に1台導入されるタブレット端末や校内に導入されたWi-Fi環境を生かしたICT機器の活用ができるように、児童生徒の授業での活用の促進や教員の更なる指導力の向上を図りたいと考えている。併せて新しく導入されるICT機器の管理面の充実も図り、タブレット端末の活用しやすい環境を整えていきたい。</p>	
達成目標	児童生徒のICT機器活用の推進	教員のICT活用指導力の向上
	・授業で3回以上タブレット端末を使用した児童生徒の割合70%以上	・「ICT活用指導力が向上した」と答えた教員の割合70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各学部単位で研修会2回以上、外部講師による研修会を全体で1回以上行う。 タブレット端末等のICT機器の管理や使用するアプリの充実を図る。 各学部1授業以上の互見授業を行う。 児童生徒が授業で使えるアプリを教員に紹介する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）